

第三號

昭和十二年自十月二十三日至十月二十四日

湖州附近ノ戦闘詳報

(第一以家堤北方高地ノ戦闘)
(第二湖州挺進隊ノ戦闘)

歩兵第六十六聯隊
第一大隊

1811

目次

- 一 本文
- 二 戦闘間特ニ功績顯著ナル者
- 三 参考事項
- 四 戦闘参加將校同相當官職員表
- 五 戦闘詳報附表第一第二第三號
- 六 湖州挺進隊ノ戦闘詳報

1811-2

自十一月二十三日
至今 二十四日
湖カ附近戰鬥詳報

(十一月二十三日、分)

一 六皇村附近及朱吳村、郭家埭、線ヲ占領セル敵ヲ
攻撃スルニ方リ聯隊ハ迂回隊トナリ朱吳村、切家村
(湖カ北方約ニキロ米)ヲ經テ湖カ西北方高地ニ向ヒ攻
撃ヲ前進ヲ開始ス之カ爲メ受ケル命令、次ノ如シ、

歩六六作命甲第四十号

十一月二十三日午前八時四十分

步兵第六六聯隊命令

於昇山市南側聯隊本部

一 敵兵約五百ハ六皇村附近ヲ又其主力陸地ハ朱吳村ヨリ郎
家塘附近ニ亘リ占領シアルモノ、如シ

師團ハ一部ヲ以テ正面ヨリ主力ヲ以テ湖カ北側地區ニ迂回
シ敵ヲ攻撃ス、

旅團(步兵第百二聯隊)工兵一中隊(爲ス)ハ迂回隊トナリ吳家

一

村一山嶽西側地區一果異村一切家村ヲ經テ湖ノ西北方
高地ニ向ヒ攻撃前進ス

奥旅團ハ國崎支隊ト交代シ本道北側地區ヨリ當面ノ敵ヲ攻撃ス
國崎支隊ハ湖ノ南側地區ニ迂回ス

二聯隊(第十中隊第十一中隊第十二中隊)兵部隊欽王兵中隊
屬スハ迂回路トリ旅團ノ進路ヲ湖ノ北側ヨリ南側ニ向ヒ前進
セントス

三聯二大隊(五兵一中隊)屬スハ前衛トシテ道路ヲ前進スヘシ

四第十中隊第十一中隊第十二中隊)兵部隊ハ旅團ノ豫備トス

迂回隊ノ後方ニヨリ米ヲ前進ス

第百二聯隊ハ師團豫備トス

五爾余ノ諸隊ハ本隊トナリ前衛ノ後方ニヨリ米ニ在リテ左ノ行軍序列
ニ基キ續行スヘシ

第四中隊ノ一小隊通信班聯隊本部第四中隊ノ残部聯隊機

閩銃中隊第一大隊(第四中隊欽)

六予、本隊先頭ニ在リ

聯隊長 山田中佐

下達法

要旨ヲ各隊長ニ傳ヘタル后命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注意

前進時期ハ後命ヲ待ツコト

大隊、本隊トナリ午前九時前衛タル第二大隊ノ後方ニ在リテ昇山
市ヲ出發ス湖刃街道上ノ橋梁ハ各所破壊セラレ前進遲滞シ
敗退セル敵ハ諸所ニ出沒シ時々我ヲ狙撃セルカ午前十時三十分
頃昇山市西南地區ヲ前進中南方大クリークノ對岸ヨリ敵機銃
ノ狙撃ヲ受ケ第一中隊ニ於テ戰死一ノ員傷ニテ生ス
午後五時頃前衛大隊ハ六皇村附近ノ敵ヲ撃退シツ、朱吳村ニ
向ヒ前進セルカ大クリーク渡河ノタメ潛渡ニ依ルノ止ムナキニ至リ

二

1814

日没トナル

歩六六作命甲第四十三号

十月二十三日午後八時五分

歩兵第六聯隊命令 朱吳家村西端聯隊本部

一聯隊吳家村西端附近ニ指營シ爾後前進ヲ準備セントス

旅團吳家村及其以南ニ指營ス

師團吳家村南側ニ指營ス

二第二大隊ヨリ將校乍候ニ組ヲ出シ別ニ指示スル進路ヲ明ニ十四日前

進ノ爲進路ヲ偵察ヲナシムヘシ

同大隊吳家村西端ニ村落露露營シ西方及指營地南側ニ對

シ警戒兵ヲ配置スルト共ニ爾後ノ前進ヲ準備スヘシ

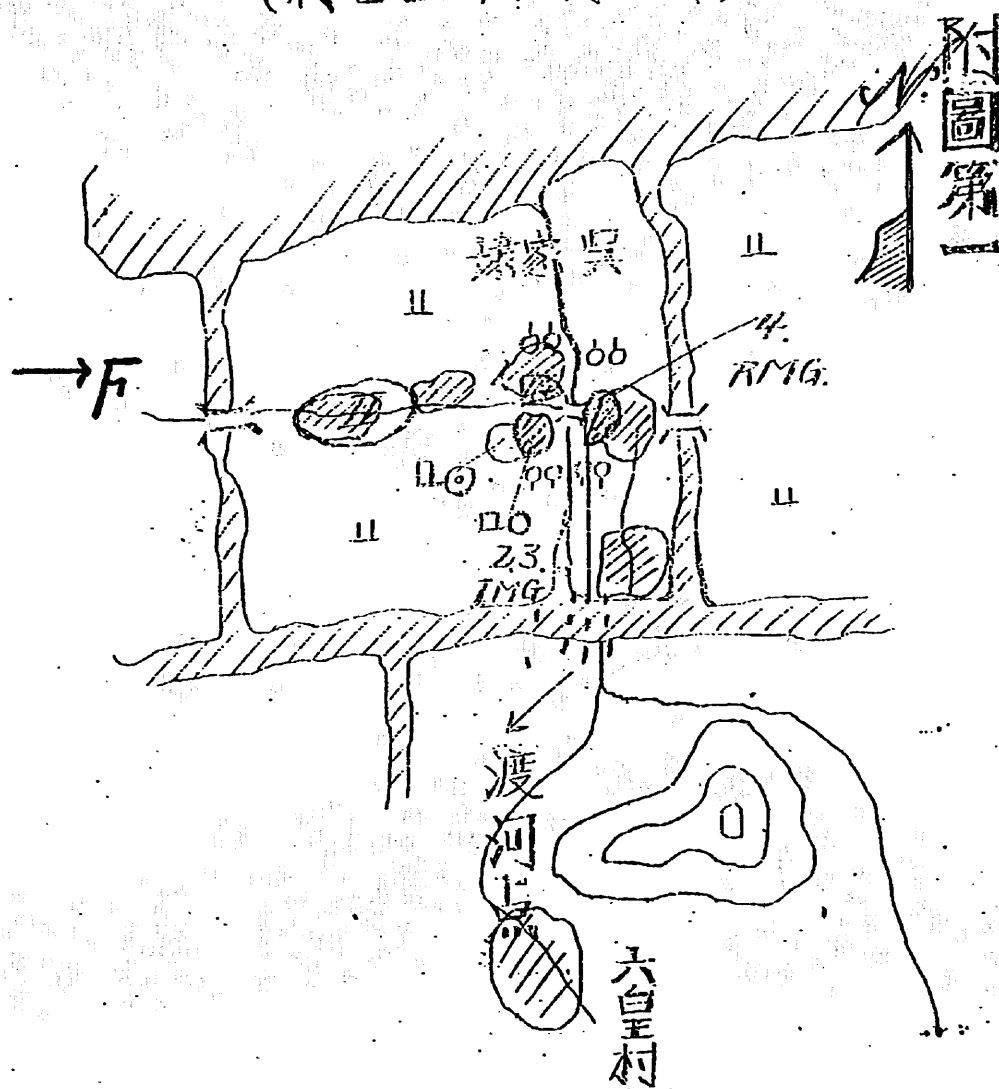
第一大隊(聯隊機關銃中隊ヲ含む)ハ吳家村中央附近ニ村落

露露營シ南方及北方ニ對シ警戒兵スルト共ニ爾後ノ前進ヲ準備ス

(シ)

第四中隊ハ聯隊本部ニ單哨ヲ配置スルト共ニ別ニ指示スル位置

吳家埭附近 / 露營要圖
(十一月二十三日夜)



1816

直接警戒兵ヲ配置スヘシ

三各隊ノ宿營地決是後本部ト連絡スヘシ

四予ハ暫ク現在地ニ在リ後聯隊本部ニ位置シ至ルニ命令受領者

ヲ出シ置クヘシ

聯隊長

山田中佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

本夜ハ暑氣殊ニ外激シテ河岸風強シ

本隊ハ午前零時ニ分漸ク所命ノ如ク進軍ヲ終リテ照葉林

ニ兵カヲ集結ス(附圖第一ノ如シ)

三

(十月二十四日分)

午前三時前進ヲ續行ス、然ルニ朱吳村北方約三キロ米前後莊附近於テ進路ヲ變更セラル大隊ハ第三大隊ト交代シテ前衛トナル
大隊ハ第三中隊ニ第一中隊ヲ屬シテ尖兵中隊トナシ以家堤ヲ經テ前進スルニ決シ前進中湖カ北端ヨリ北走スル大ノリク東岸ニ達スルヤ以家堤北方高地(此高約五六十米、正面約四五百米ナリ)形獨カ高地ニ異々敵兵ノ散在セルヲ發見シ偵察ノ結果同高地ニ敵ハ既設陣地アリ發見ノ乘機ヲ受クハナリ、タリ終ニミ
米ニシテ湖カ北端ニ近ノ橋梁ヲ有スル外渡河莫ナシ
此時聯隊長ト共ニ敵情ヲ觀察シ次ノ要旨ノ命令(步六六)作命
甲第四五号其ノ一「ヲ渡リ渡河掩護ノタメ尖兵中隊主力ヲ以テ以家堤東北側大ノリク東岸ニ第一中隊及聯隊中隊ノ一部ヲ以テ切家村北側ノリク東岸附近ヲ占領セシメ主力ヲ中興後村落附近ニ集結ス此ノ時ノリクヲ舟ニ依リ退却

此敵ノ一部ヲ發見シ第三中隊ハ之ヲ攻撃シテ十數名ヲ射殺シ舟ヲ捕ヘテ捕虜七名ヲ得タリ、捕虜中將校二名アリ（上校一、上尉一）

三、工兵隊ノ架橋作業中ナリコソ敵ハ次第ニ其數ヲ増シ敵彈漸ク繁シ渡河掩護隊ハ之ニ應戰適時敵ヲ制壓ス此時ハ伏況別紙要圖第二ノ如シ

四、午後二時聯隊命令ヲ受領ス（歩六作命甲第四十四号）其、要旨左ノ如シ

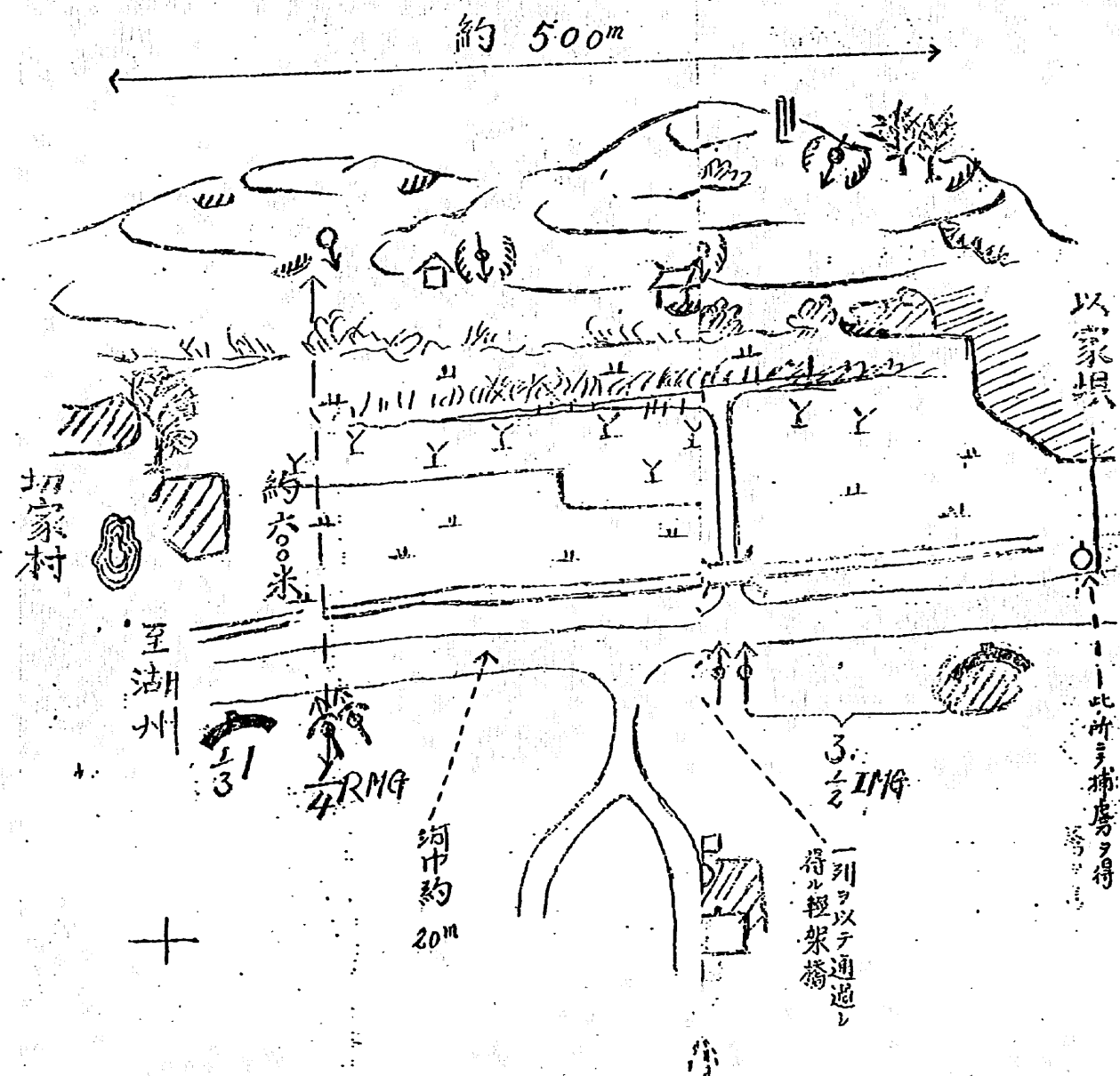
一、敵情諸官、知ラレル通り

二、聯隊ハ工兵隊ノ架橋ニ依リ前岸ニ進出セントス

三、第三大隊ハ……（重輕機ノ大部一銃ノ一部）ヲ以テクリーク

東岸ニ於テ渡河掩護

四、前衛タル第一大隊ハ一部ヲ前岸ニ渡河セシメ架橋兵ヲ掩護スルト共ニ前方部落ヲ搜索スヘシ



附圖第二

右命令ニ基キリーク東岸掩護部隊ヲ第二大隊ト交代セシメ
現地ヲ指シツ、聯隊命令ヲ示シ大隊命令ヲ下達ス

一第三中隊ヨリ架橋点掩護部隊トシテ49ヲ有スル二分隊ヲ
先ツ渡河セシメ夫々直ニ右前方縦ノクリークノ左側桑畑(約
二百米前方)及左方約二〇〇米一軒家ニ於テ掩護セシメ又
一部(約半小隊)ヲ以テ以家垣部落(左前方約三〇米)ヲ
搜索シ之ヲ占領前面ノ敵情地形ヲ偵察セシムシ

残余ハ渡河後河岸堤防ニ遮蔽シ前進ヲ準備ス(シ)
二第一中隊平石小隊ハ第三中隊先頭部隊ニ引續キ渡河シ
右前方約三百以家垣無名部落ヲ搜索シ該部落前端ヲ
占領前面ノ敵情地形ヲ搜索ス(シ)

攻撃ヲ前進ニカリテハ右第一線ヲラシムル豫定

三残余ハ概ネ左ノ順序ニ逐次渡河シタル後先ツ河岸ニ遮蔽
シ前進ヲ準備ニ在ル(シ)

五

大隊本部(114)ノ、殘部(214)但シ(114)ハ渡河セ直ニ西岸ニ於テ
ナマコ山右高地ノ所ニ對シ射撃ヲ準備スヘシ

渡河後前進ノ時期ハ示ス

四余ハ第三中隊ト共ニ前岸ニ至ル

五右命令ヲ下達セル頃ニ工兵、架橋作業略ニ完成ス

橋梁ハ舟橋ニシテ一列縱隊概ネ三步ヲ間シ連續渡河シ得ル
程度ナリ

六午後三時十分頃渡河ヲ開始シ逐次前進ス、敵ノ射撃ハ依然
熾烈トナリ渡河及爾後ノ前進路兩側ノ水面(右方ハ縱ク
一ノミシテ左方ハ深サ三十サシ余、水田ナリ)ニ落下水煙ヲ立ツル
様タ立、池水面ヲ見ル如ク敵彈ト我機關銃ノ掩護射撃ノ
音トハ音聲ヲ以テスル部ニ落ノ指揮ヲ不可能ナラシメタリ
大隊長ハ逐次渡河後堤防ニ待機スル部隊ヲ渡河ト莫掩護
隊ノ線ニ進出セシム、散兵ハ躍進ニ方リ水田中ヲ通過スルコトヲ

厭ヒ縦射ヲ受クル畦道ヲ一列ニテ前進スルモノ多ク恰モ内地ニ於
ル秋季演習ニ於ケルニ似タリ水田ハ降雨ノタメ溜水シタルモノニシ
テ通過敢テ困難ナラサルナリ依テ極力之レヲ指示矯正シ幸ニ死
傷者ヲ生セザリキ

七
約四十分ノ後以家垣部落ノ搜索ニ任セル小隊ヨリ相次テ同村
落共有力ナル敵部隊無ク敵ハ專ラ「ナマコ山」ニ占據シタルコト
ヲ報告ス依ツテ速カニ「ナマコ山」ヲ奪取スルニ決シ獨斷左記要旨
ノ命令ヲ各別ニ下達ス

一、敵ハ專ラ「ナマコ山」ニ在リ其状況諸官ノ見ル通り

二、大隊ハ「ナマコ山」ヲ攻撃シ速カニ「ナマコ山」ヲ奪取セントス

三、攻撃ノ重点ヲ左方ノ高地ニ指向ス

四、第一中隊平石小隊右第一線現在地ヨリ「ナマコ山」右ノ高地ヲ

包圍スル如ク攻撃スヘシ(傳令口達)

五、第三中隊左第一線以家垣方向ヨリ「ナマコ山」左ノ「ゴブ」ヲ攻撃ス

六

ベシ特三部ヲ更ニ敵ノ側背ニ迫ル如ク攻撃セシムシ中隊長ハ達
五、第一機關銃中隊ハ現在地ニ於テ主トシテ左中隊ノ戦斗ニ協方スシ
但シ爾後攻撃ノ前進ニ方リテハ全部左中隊ニ近ク前進スヘシ銃
隊長ハ達

六、聯隊機關銃小隊ハ現在地(堤防)ニ在リテ左中隊ノ戦斗ニ協
力第一線中隊ナマコ山ヲ奪取セ速カニナマコ山左ノコブニ前進
スヘシ(傳令ハ達)

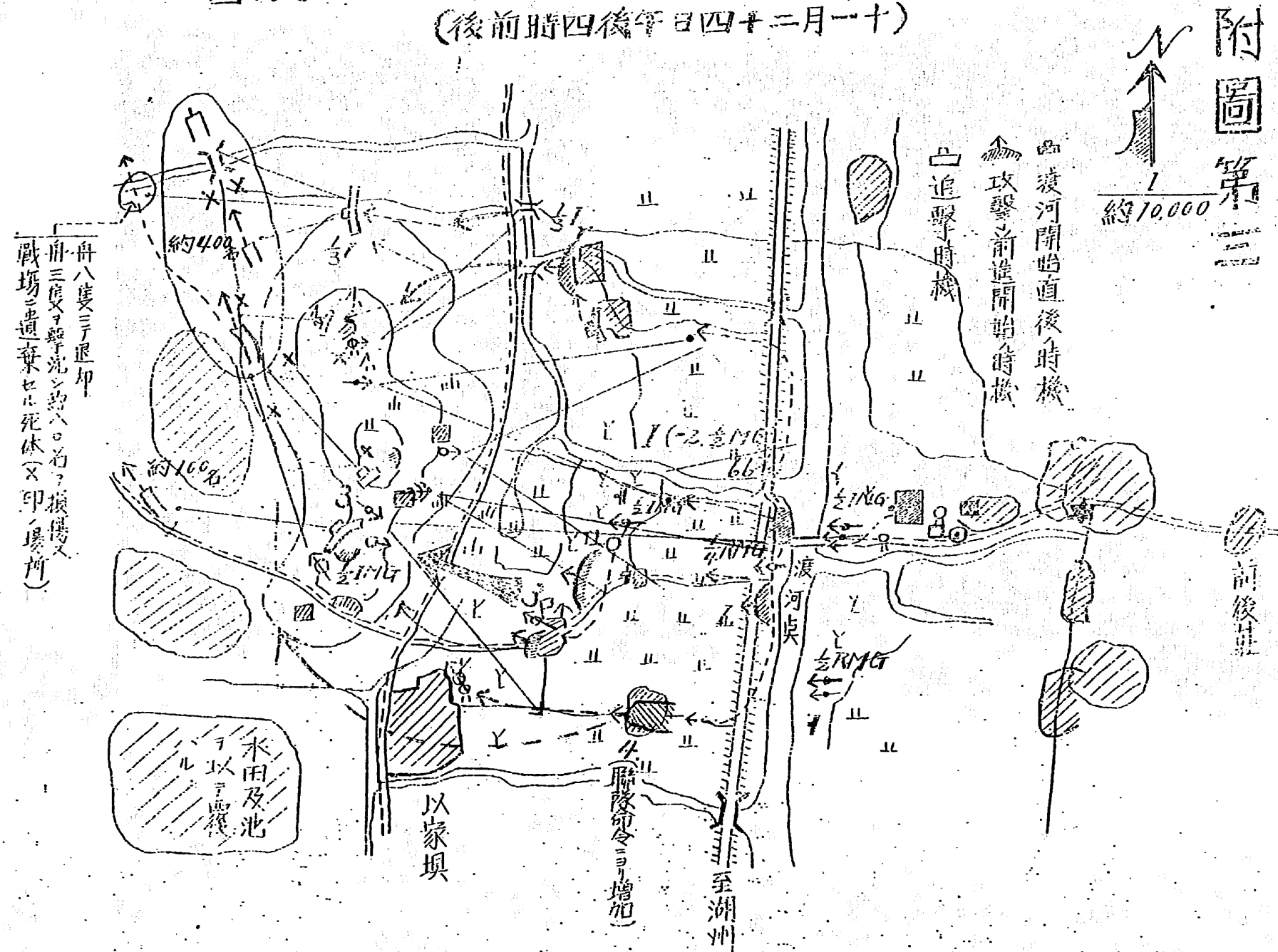
七、第三中隊ノ残余ハ豫備隊トス

第三中隊ノ後方ヲ以テ壕方方向ニ前進スヘシ(命令受領者ハ達)
此ヨリ稍前日(一)日ノ間ニ電話架設セラル直ニ状況並ニ大隊長ノ
決心及部署ヲ報告ス

此時第三中隊ヨリ以テ壕方ナマコ山トノ中間地區ニハクリーク無
キコトヲ報告ス

情況別紙要圖第キハシ

圖要擊攻ノ六六歩道附(山コマナ)地高方北垣家以
(後前時四後年日四十二月一十)



1825

八、右如ク攻撃中聯隊ヨリ電話ニテ(後筆記命令作命令 第百五号) 攻撃命令ヲ受領シ第四中隊ハ大隊ノ左ニ展開シ敵側背ヲ攻撃シ爾今大隊長ノ指揮下ニハルトヲ知ル
第一線中隊ノ攻撃ニ逐次進涉シ其並配屬RTH共ニ適時陣地ヲ前方ニ進ノ緊密ニ第一線協力シ第四中隊ノ包圍次第ニ成リ戦斗頗ル有利ニ發展ス

午後四時過ニ至リ第一線右小隊ノ一部ハ既ニ高地ノ一角ヲ奪取セルヲ見大隊主力方面ノ敵兵次高ニ減少ス第三中隊ハ高地中腹ヲ喊聲ヲ揚ケ登高中ナリ

午後四時十分頃遂ニマコ山ヲ奪取ス第一線ハ山脚ヲ遠ノ行ノ敵ニ對シ追撃射撃ヲ行ヒ大打撃ヲ與フ

九、大隊長ハ此ノ状況ヲ目撃シ第三中隊ノ一部ヲ以テ追撃ヲ續行セシムルト共ニ主力ハ現在高地ニ部隊ノ集結ヲ命シ且ツ此時左前方ニ進出シカリシ第四中隊ヲシテ聯隊命令ニ基テ從前ノ前進路

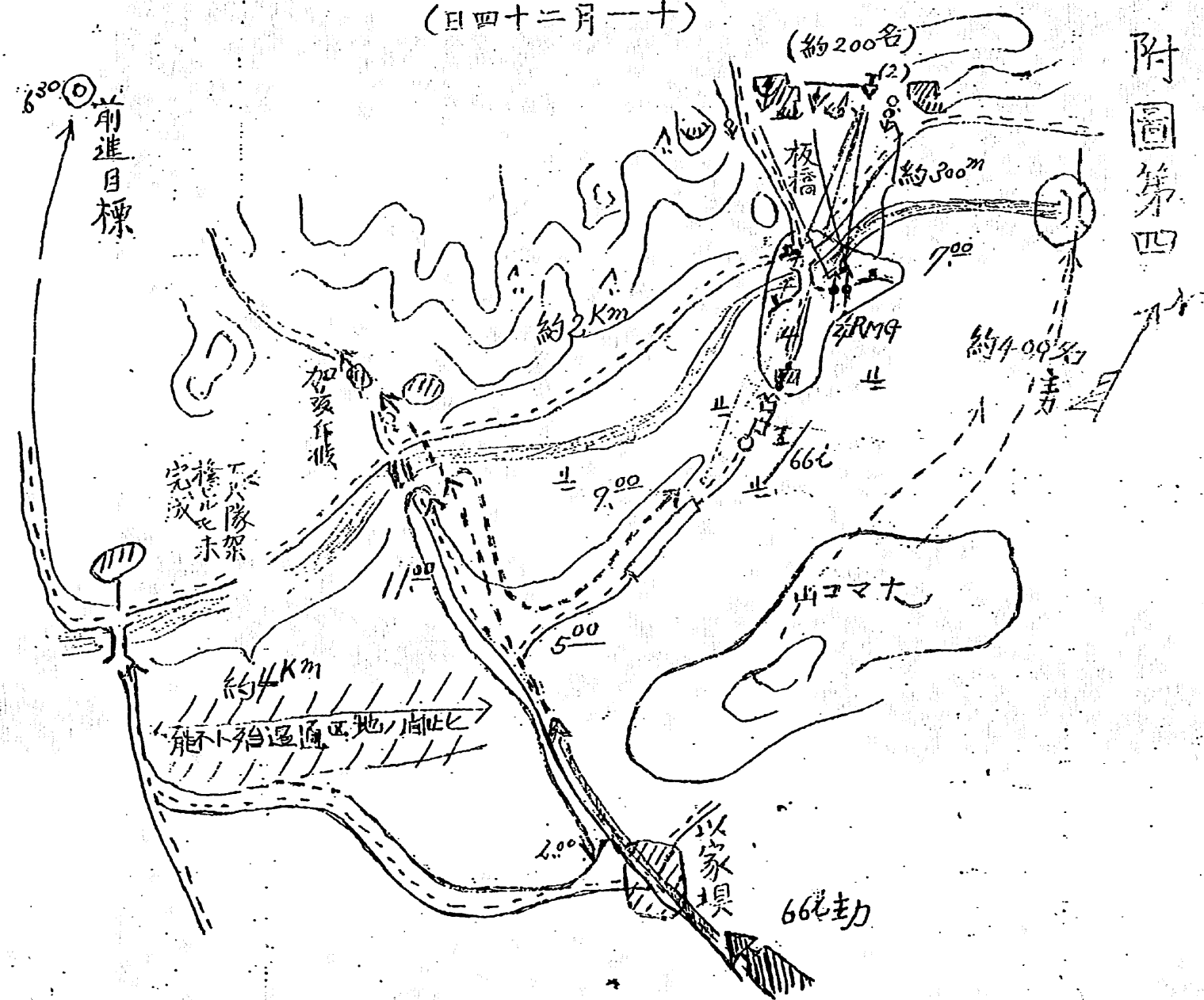
セ

1826

ヲ前進スヘキコトヲ命シ加藤少尉ヲ將校在候トシテ湖島西北方
高地ニ至ル進路偵察並該地附近ノ要地占領ノ任務ヲ與ヘ派遣ス
恰モ此時高地脚ニ在リシ聯隊長ニ會シ状況並處置ヲ報告シ且
ツ依然大隊ハ前衛トナリ豫定ノ進路ヲ湖島西北方高地ニ急進
スヘキ聯隊命令ノ要旨ヲ受領ス(歩六作命甲第百十六号)
部隊ノ集結略ニ終ル頃島田中隊ニ附一小隊追及セシメ火兵中隊
トシ殘余ヲ本隊トシテ島(湖島)ノ順序ニ前進ス頃ニ午後四
時五十分ナリ

然ルニ橋梁破壊セラルヲ以テ搜索ノ結果北方ニ迂回路ヲ求メ
火兵カ以家堤西北方約三十米ノ大クリノヲ通過セントスルヤ俄
然前方約三百米ノ高地及村端ノ敵ノ阻止陣地ヨリ重輕機六
射撃ヲ續イテ迫撃砲(三門)ノ射撃ヲ受ク此ノ附近ニ至ル
道路兩側ノ地形ハ深田ト大小多數ノ池ト桑畑トヲ碁布シタル
如ク又クリクハ幅約十米降雨ノタメ増水シ橋梁ノ外渡河具

以家堤附近戰鬥經過及行動要圖
(十一月二十四日)



ナシ、尖兵中隊ハ直ニ之ニ應戰、諸偵察ノ結果敵兵力ハ尠ク
モ二百堅固ナル既設陣地ニ據リ之ヲ突破シタリ、時間ヲ要
スルヲ認メ大隊長ハ聯隊長ノ意圖ヲ受ケ日没後進路ヲ変更
シ以家垣西北方約千米ニ架橋中ノ兵隊ノ作業完了ヲ待ツ
午前二時頃師旅團ヨリ派遣セル兵隊此ノ内者ヲ伴ヒ再ヒ
進路ヲ変更シ以家垣西方ヲ経テ依然前任務ニ從ヒ前進拂
曉漸ク前命ノ地矣ニ達ス、

此ノ夜寒氣殊ノ外烈シク水田ニ結氷シテ厚サ約一糎ノ結氷ヲ見
タリ、此ノ日没前ヨリ拂曉至ル戦斗ノ概略ハ附圖第四ノ如シ、

十、午前八時頃敵ハ密水橋北方高地ヲ占領シ歩ハ旅團ハ未明ヨリ
之ヲ攻撃中ナルヲ知り旅團命令ニ依リ大隊（第四中隊欽）ハ山脚
道ヲ前進セントセル時本道ヲ前進スヘキヲ命セラレ午前十時稍過
キ密水橋北方約二千米高地脚ニ本道上ニ於テ戦斗中ノ歩兵第
十五聯隊ニ追及シ襲ミ先遣セル加藤將校以下戦斗状況ヲ知ル

其ノ状況附圖第カ、如シ

十一、參考トナルヘキ所見

一、以家堤北方高地附近ニ至ル所ニ敵ノ掩蓋銃座、散兵壕アリテ
各方向ニ對シ射撃手シ得ル如ク設備セラル敵ハ巧ミ之ヲ利用シ
然レ共本戦斗ニ於テハ敵ニ逐次陣地ニ就ケルモノニシテ且ツ本部書
記一名ヲシテ敵情視察ニ專任セシメタルヲ其ノ配備比較
的明瞭ニ知得スルヲ得タリ

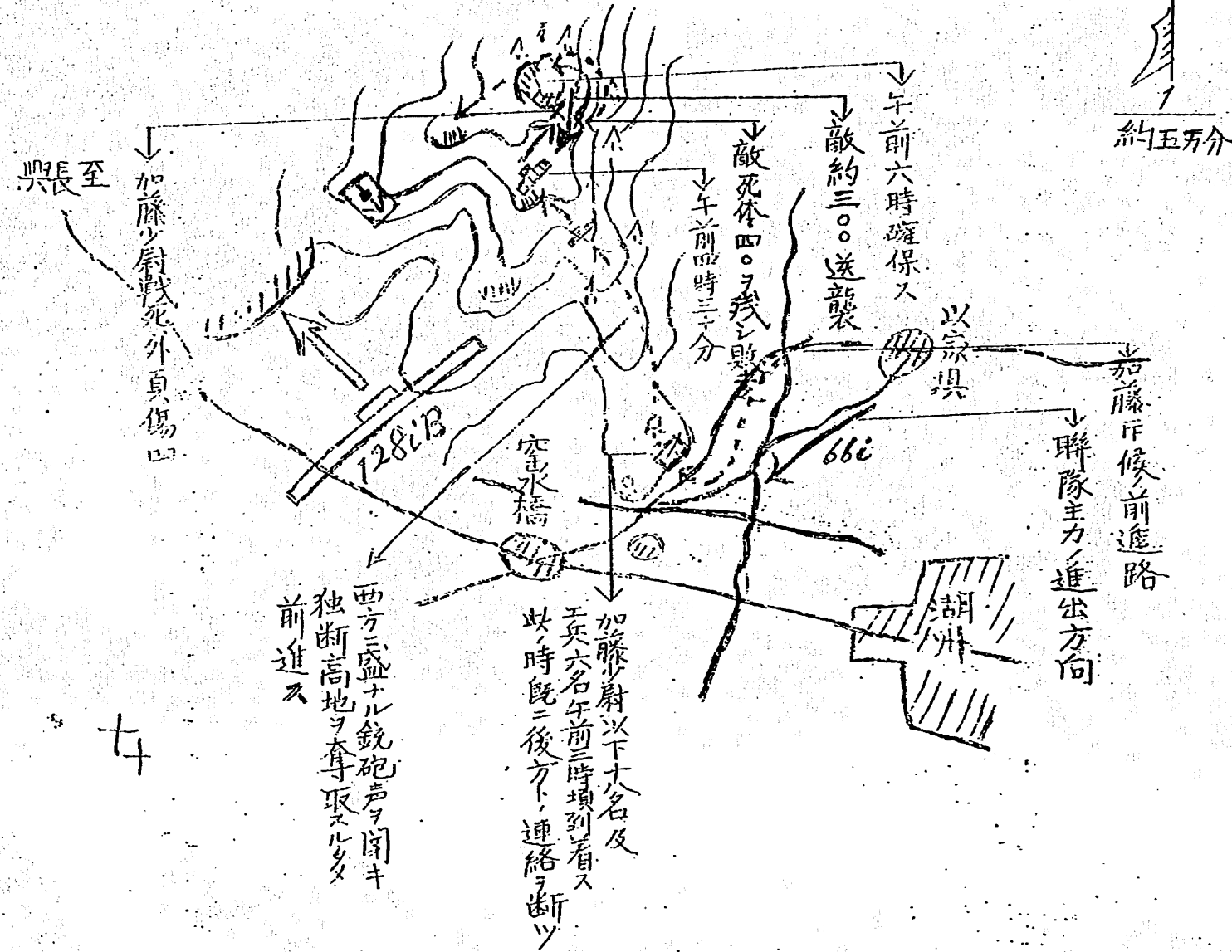
二、本戦斗間散兵ハ敵彈下ニ於テ水田ノ畦道ヲ一列縦隊ヲ以テ而
モ連續同一路ヲ前進セントシルカ忽チ敵集申火ヲ蒙レリ
下級幹部ノ適切ナル指揮ヲ緊要トス

三、板橋(以家堤北方約三ノ米)附近敵阻止陣地前戦斗ニ於テ
機関銃々同一地ト莫ニ於テ長ク射撃シ爲ニ迫撃砲ノ損害
ヲ受ケタリ最モ戒ムヲ要スルモノト認ム

四、本戦斗間吾大隊ノミナラズ第一大隊ニ於テモ前進路不明ノ

圖要關戰候年藤加此方於二地高方北橋水窖
(日五十二月一十)

附圖第五



タメ非常ナル苦ト徒勞トヲ來セリ地圖ノ不正確余格ナキ急
追住民、皆無等其一因ナリ將來ハ勤シモ大隊ニ通譯一名
ヲ附シ極力道案内支那住民ヲ獲得スルコトニ努ムルハ絶對ニ
必要ナリ

士死傷表

鹵獲表

武器彈藥損耗表

十三功績顯著ナルモノノ概況

(部隊)

一第一中隊平石小隊(第三小隊)

以蒙埃北方ナマルムノ攻撃ニ於テ巧ニ敵側背ヲ包圍攻撃シ速カ
ニ同高地、一角ヲ奪取敵潰走ノ因ヲ作リタルノミナラス敵カ舟
ヲ以テクワリクヲ渡リ逃走セントスルニ追シ多ク大ノ損傷ヲ
與ヘタリ。

附表第二、第三、如シ

ニ第四中隊加藤將校下候(三分隊)

以家堤ヨリ湖カ西北方高地ニ至ル進路偵察及要ト異確保
ノ任ヲ受ケ小部隊ヲ以テ深ノ敵中ニ入り本明友軍ノ戦斗酣ナ
ルヲ知ルヤ空岳水橋北方嶮難ナル高地ヲ登リ敵ノ逆襲ニ際シ
テハ果敢ニ之ヲ反撃シ敵ノ最右翼據点ヲ奪取天期后ニ於ケル
友軍戦斗ニ貢獻セル所多大ナリ

三第三中隊

以家堤北方ナマコ山ノ攻撃ニ於テ勇猛ナル攻撃ヲ強行シ神
速ニ之ヲ奪取シテ大隊ノ前進ヲ容易ナラシメタリ

(個人)

一第四中隊小隊長 少尉 加藤箕三郎

其ノ行動ハ附圖第五ノ如シ

該下候ハ途中ニ於テ連絡ノ夕ノ傳令ヲ派遣セルモ主力部隊ノ
進路変更セラレタルヲ其ノ目的ヲ果サズ本明盛ナル銃砲聲

ヲ隔キ戦斗酣ナルヲ知り、既に旅團主力進出セリト判断セル所
候長ハ附近ノ要兵タル高地ヲ占領スルニ決シ、小兵力ヲ以テ
深ク敵中ニ侵入シ敵ノ逆襲ヲ受クルヤ部下ヲ叱咤激勵自
ラ陣頭ニ立テテ突入敵數名ヲ斬リ更ニ附近ノ高地ヲ
占領セントシタル刹那身ニ三彈ヲ蒙リ戦死セリ
第一中隊伍長 中村惣次郎

平石小隊分隊長トシテ、ヤマコ山ノ攻撃ニ際シ最右羽翼ニ
在リテ攻撃前進小隊長ヨリ敵側背ノ状況偵察ヲ命セラル
、ヤマコ山ノ背後ニ急進、恰モ約四百名ノ敵將ヲ以テクリ
渡河中ナルヲ發見、機敏ニ輕機ヲ以テ之ヲ射撃シ少クモ八
ノ損傷ヲ與ヘ又機ヲ失セヌ其ノ状況ヲ小隊長ニ報告、小隊
長ヲシテ側防包圍ノ任ヲ完フセシメタリ

本戦劇に於ける死傷者					
隊	号	戦	死	者	重傷者
第一中隊		歩一	額崎玄三	松	大塚銀三郎
第三中隊		歩一	佐藤	睦	野口利治
第四中隊		歩一	如藤實三郎		柴山静
第二中隊		歩一	熊倉金四郎		高田士郎
聯隊附隊		騎一	谷本好馬		阿久津末太
		歩一	黒須三郎		山本明治
		歩一	坂崎建一		牛島榮藏
		歩一	増田		増田

1835

隊
號

職

官氏

2

聯隊MG隊

昭和十二年十一月
自二十二日
至二十四日

第一大隊死傷表

考

本表外輕傷者尚隊中在。有步六第一大隊進士官下兵。

昭和十二年十一月^{自二十二日至二十四}日第一大隊武器彈藥損耗表(甲)

[illegible]

昭和十二年十一月自二十二日第一大隊鹵獲表

種類	區分	員數	備考
捕虜	校符	1	一敵ノ遺棄セル死体二八〇
	准士官 下士兵	8	
	馬匹		
戰利品	銃	104	
	砲		
	實包	1220	
	砲彈		
	器具		
	糧秣		
	鮮肉	200	

昭和十二年
十月二十四日
湖州挺進隊戰鬥詳報

歩兵第六十六聯隊第一大隊

1838

目次

- 一 戦闘前ニ於ケル彼我形勢ノ概要
- 二 我兵力及編成
- 三 戦闘ニ影響ヲ及ボセシ天候氣象及戦闘地ノ状態
- 四 攻撃部署及戦闘經過ノ概要
- 五 戦闘成績及彼我ノ損害
- 六 参考トナルヘキ所見
- 七 勲功顯著ナル者
- 八 死傷表
- 九 武器彈藥損耗表
- 十 鹵獲表

1839

昭和十二年
十月二十四日 湖州挺進隊戦闘詳報

一 戦闘前ニ於ケル彼我形勢、概要

敵約五百八十人、十月二十三日以來湖州東方太皇村附近ノ各高地及本道並クリーク附近ノ既設陣地ニ又其ノ主力ハ朱吳村一廓家塘附近ニ亘ル陣地ニ據リテ頑強ニ抵抗シテリ

又師團ハ國崎旅團ト協力シ此ノ敵ヲ攻撃スハク其ノ一部ヲ正面ヨリ主力ヲ以テ湖州北側地區ニ迂回ラ企圖シテリ

聯隊ハ右迂回隊トナリ旅團ノ進路ヲ湖州西北方ニ向ヒ前進中第一大隊ハ崑山西北附近クリークヲ漕渡ニ依リ十月二十三日午後十一時二十分大隊全員ノ渡河ヲ終ル

3. 當時部隊ハ末ノ食モ喫食シテラス、乾パンヲ所持スル者サヘ僅少ナリ水邊ノ寒氣頗ルニ加ヘリ外套ヲ着用シヤリテ戦闘行動ニ輕捷ヲ欠クノ状態ナリ

二我カ兵力及編成

長 龍谷大尉

歩兵第六十六聯隊第二中隊長 岡田中尉以下七八名

同 第一機関銃隊第二小隊長 石川曹長以下二〇名

同 第十二中隊 上原軍曹

計 一〇〇名

三 戦闘ニ影響ヲ及ホセシ天候氣象及戦闘地ノ状態

ノ天候及氣象 曇田曆十月三十一日ノ下弦ノ月ハ密雲ニ覆

ハレタルモ二三十米ハ尚識別ニ得

外套ヲ着用スルモ尚發火ヲ要スル程寒氣頓ニ加ハリ戦闘

行動ハ輕捷ヲ欠ク

又戦闘地ノ状態

ハクリーク地帯ニシテ橋梁以外ハ舟楫ニ依ルニテ渡河

ニ得ス包圍迂回又其ノ禦前ヲ受クルコト多シ

口 湖州市街内ハ敷石道ニシテ二階建ノ家屋連接シ支那特有ノ市街地ヲ形成シアリ

住民ハ避難シテラス敗殘兵不逞ノ住民等潜伏シテリテ狙撃ヲ受ケタルコトニ由アリ

ハ守兵ヲ配置セル橋梁ニ煉瓦又ハ土囊ヨリ掩体ヲ構築シ拒馬ヲ設ケ手榴彈ハ豊富ニ準備シタルモノ、如ク夜間ト雖近接シ得ス

湖州東北部「フリーク」ニ在ル、永久橋ハ中央最高部位ニ土囊ヲ以テ掩体ヲ構築シアリ

四 攻撃部署及戦闘經過ノ概要

八月十三日午後十一時三十分山田聯隊長ハ一川大隊長及澁谷大尉ヲ招致シ左記要旨ノ命令ヲ下達セラル

左 記

一 澁谷大尉ハ第一大隊ヨリ歩兵一中隊ト機関銃一小隊トヲ併セ

二

指揮第十二中隊上原軍曹誘導依り湖州西南本
道附近ニ挺進シ敵ノ退路ヲ遮断スヘシ

ニ途中湖州東北ノグリーク渡河ヲ確保、為步兵約半小隊
ヲ殘置スヘシ

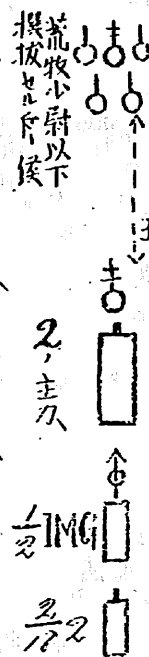
(注意)

聯隊長ハ任務遂行ニ関スル訓示及注意ヲ與、途中師旅
團長ニ屈告ノ上出発スヘキヲ命ゼラル

又第二中隊トMGノ一小隊トヲ掌握シ、戦闘に際シ傳達並ニ發
備夜襲挺進中ノ戦闘部署所要ノ注意ヲ與、各自確
平タル決心ヲ促ス

3. 師團司令部ニ到リ磯田參謀長ニ屈告シ夜襲挺進ニ関スル
腹案ヲ陳ヘ更ニ市街戦トナリタル場合及退路遮断ニ関スル
處置任務不成功ノ場合ノ注意等ヲ承ケ續キテ末松
師團長ヨリ懇切ナル訓示ヲ受ケ旅團長ニ屈告ノ上前進ス

以行進部署



上原軍曹、誘導ニ依リ第二中隊ヨリ撰拔セル荒牧少尉以下十四名ヲ進路上ノ斥候トシ澁谷大尉帶同進路上三十米前方ヲ前進區署ス

斥候ハ敵監視兵ニ衝突セハ機ヲ失セス捕縛スルカ又ハ刺殺スヘシ續イテ報告ニ取返ヤシ、スル敵兵アラハ之ニ捕獲スル等放膽敢為ナルヘシ爾餘ハ側壁ニ平臥シ狀況ヲ觀察シタル後行動スヘキヲ命レ前進ス

六夜襲ノ方針

奇襲ニ依ル大奇襲其ノ舉ヲ得サレハ強襲ニ依リ敵ノ監視線ヲ突破シ天明迄ニ所命地点ニ挺進シテ敵ニ企圖ヲ秘匿シ敵ノ退路ヲ遮斷セントス

三

第二案若レ前項任務ヲ達成シ得サル場合ハ湖州西北側高地附近(師團進出方向)ニ進出シ敵ノ退路ヲ遮断セントス

△十一月二十四日午前二時湖州東北カリーク北岸道路ニハ丸太及舟材家具ヲ以テ阻絶シ永久橋上ニハ土囊ヲ以テ掩体ヲ構築シ監視兵ヲ以テ守備シテ撃退シ續イテ市街内ニ突入前進ス住民ヲ捕ヘテ道案内セシメントスルニ湖州西南ヘノ道路ハ急傾キ又耶兵守備シテ知事役ハ虞ヲナレ或ハ脅レ或ハ金品ヲ與ヘテ使用セリ

△津布久伍長以下八名ヲ橋梁確保ノ爲ニ残置シ爾後西南第二橋梁占領ノ際ハ更ニト運送シ將來與旅團進出ノ爲ニ挺進隊トシ運送ヲモ命ス

△更ニ西方及南方ニ通スル橋梁ヲ偵察シテ突破セントスルモ各橋梁ニハ約一分隊弱ノチエツク式機銃及手榴彈ヲ豊富ニ有スル監視兵在リテ土囊若クハ煉瓦ヲ以テ掩体ヲ構築シ拒馬ヲ設ケテ

頑強ニ守備シアリテ敵誰何ヲ受ケテ罪見的話部ト應答
敵ノ躊躇シタルニ乘シ突破セントスルヤ拒馬ニ懸ツテ阻止セラル、ヲ
監視兵ニ察知セラレ猛射ヲ受ケ續イテ手榴彈ヲ蒙リテ不成
功ニ終ル

9. 更ニ其ノ南方橋梁ニ迂回シ一意突破ニ努力セルモ橋梁ノミナラス
河岸附近ノ家屋ヲ設備シ防禦シアリテ東北方方面ヨリノ突
破愈々困難トナリ附近家屋内ニ手榴彈又ハ小銃ヲ有スル
潜伏兵在リテ狙撃ヲ受ケルコト度々ナリ

茲ニ於テ決心ヲ變更シ何レカノ橋梁ヲ強行突破シ以テ任務
達成ニ努力スヘク再行シタルニ親シモ不成功ナル

石川少尉ハ一小銃一分隊ヲ以テ後方警戒ノ爲ニ殘置ス時
二年前六時ナリ

續イテ東南方橋梁ヨリ更ニ農園附近ヲ偵察セルモタリナシ

ニ橋梁ナク渡河レ得ヘキ舟筏ヲモ發見レ得ス

10. 別紙附圖第一ノ如ク湖州東北部ヲ占領ス

11. 午前二時五十分湖州東北部ヲ占領シ新命ノ方向ニ轉進セント
努カセルモ各橋梁ハ皆機銃ヲ有スル一カ隊弱ノモノニ拒止セ
ラレ銳意之カ突破ニ努メツヤリ時ニ午前六時三十分ナリ

12. 午前七時頃我重砲ノ射撃ヲ開始スルヤ其ノ近彈ハ西側監
視兵ノ附近ニ破片落下シタルヲ以テ止ムナク東北角橋梁
附近ニ部隊ヲ集結ス

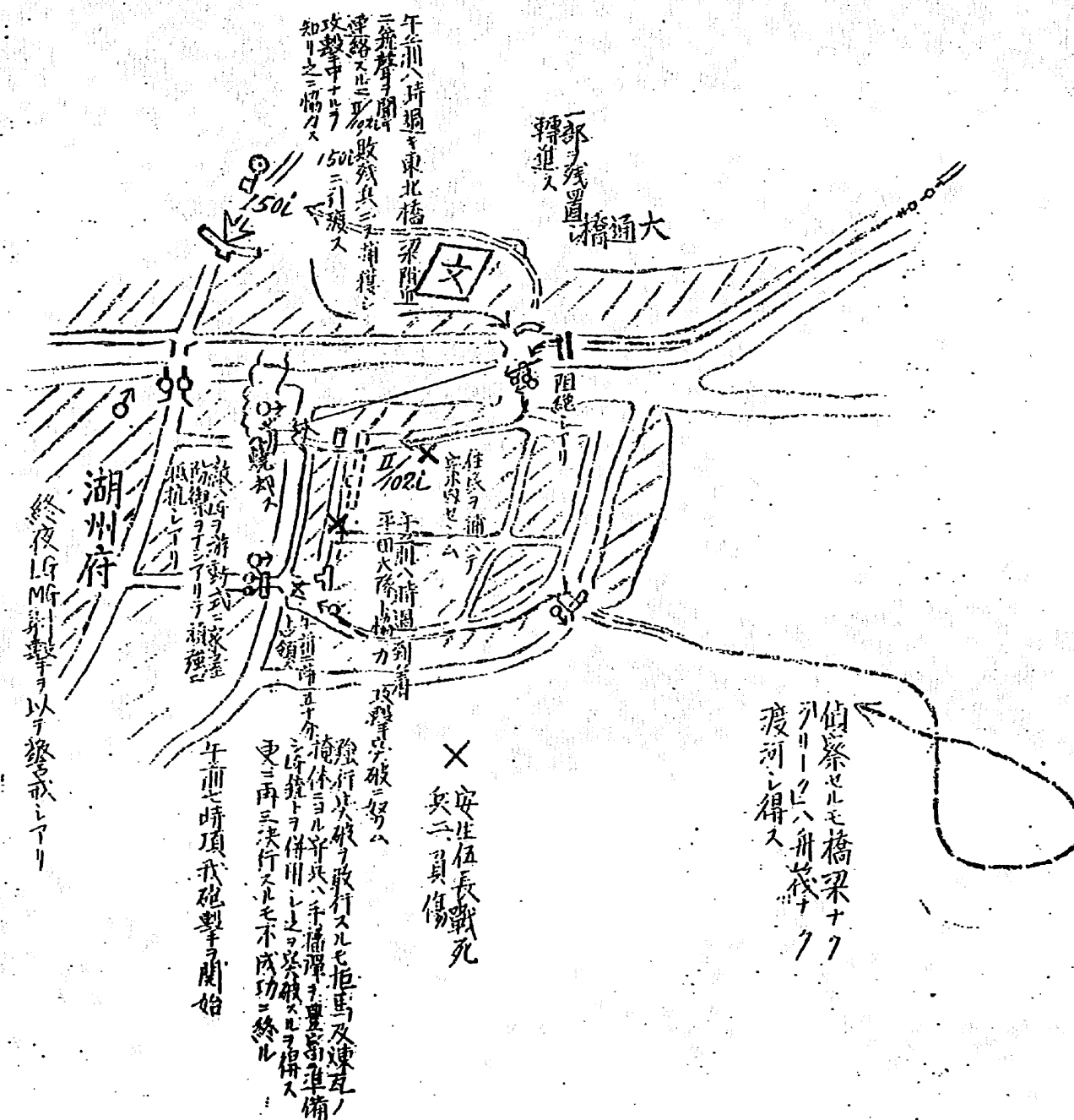
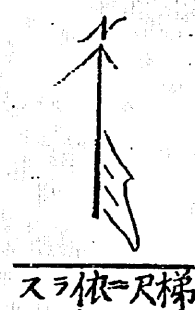
13. 傷者ノ救護及收容ノ為我カ砲彈ノ安全地帯へ著シテ後
退シタルトII/150i 前軍医ヲ以テ救護セシメタル為以外時間
ヲ經過シタリ

14. 傷者ノ處置ヲ行ヒ嚴家貴ニ向ヒ迂回前進セントシ前進中
150i 長ニ逢ヒ續イテ機銃聲ヲ傷者ノ方ニ聞ク再ヒ東北

附圖第一

湖州東北角附近占領要圖

十一月二十四日午前二時於ル



× 潜伏兵ヲ射(利)殺セル所

× 安生伍長戰死
兵二員傷

偵察セルモ橋梁ナク
渡河ニ得ス

燒却中

1848

橋梁附近ニ到ルヤ¹⁰²ⁱ長平田少佐ニ會シ同隊ト協力シテ
之ヲ攻撃シ一部ノ家屋ヲ燒却數千込ス

正午過キ完全ニ各橋梁ノ敵ヲ擊退シ當面ノ敵ヲ⁵⁰ⁱニ委シ
湖州西北方巖家貴方³回スハク轉進中既ニ師團ノ迂
回隊ヲ^レキモノ西北方ヲ前進中ナルヲ³擊シ今ハ當隊迂回
挺進スヘキ時機ニアスト判斷シ原隊ニ復歸スルニ決ス

師團司令部ニ所要ノ報告セシハ十一月二十四日午後四時三十分
大隊長ノ指揮下ニ入リタルハ午後十一時ナリ

五 戰鬪ノ成績及彼我ノ損害

ノ戰鬪效果

敵ハ湖州東側各高地及クリクノ地障並既設陣地ニ依リ
我ヲ拒止シ以テ湖州及其西方ニ於ケル主力ノ退却ヲ收容
セント企圖セリコト確實ナリ然ルニ³ニ失敗セシ敵ハ湖州東

五

1849

北諸橋梁ヲ突破セラルコトハ敵ノ最モ苦痛トスル處ナルヲ以テ頑強ニ抵抗シタルモノト判斷ス

本戰鬪ニ依リ敵ニ多大ノ脅威ヲ與ヘ湖州放棄ヲ速ナラシメ且奥國崎嶇團ノ湖州西方進出ヲ容易ナラシメタルモノト信ス

2. 敵ノ遺棄死体 一二 捕虜 二

3. 我損害

戦死 左大腿部貫通銃創

第二中隊

安生政一

重傷 左腰部貫通銃創

同 後歩一

渡邊金一

左眼球異物

同 後歩上

谷島芳雄

六、參考トナルヘキ所見

1. 敵ノ橋梁監視兵ハ頑強ニテ手榴彈ヲ豊富ニ携行シ隠忍克ク敵ナカラモ尚我LG MG火ノ射撃中近接スルヲ待チテ

六
投擲シアルモノヲ見受ケタリ
又敵ノチェック機銃手ハ游動的ニ家屋ノ側壁又ハニ階登リヲ
利用シタルト特ニ將來此ノ著意ヲ必要トス

1851

勲功顯著ナル者

第十二中隊 後備役歩兵軍曹上原 昌

湖州挺進隊ノ誘導ニ當リ寒氣烈シテ疲勞困憊ナル状態ナルモ不拘屢々危険ヲ冒シテ克ク其ノ誘導ノ任ヲ果セルミナラス荒牧將校并候ト行動ヲ共ニ敵橋梁監視兵ヲ突破セント再三強行シタルモ何レモ敵ノ爲阻止セラレ所トナリ不成功トナルモ克ク并候長ヲ輔佐シタルハ功績顯著ナルモノナリ

第二中隊 歩兵伍長 吉田 作次

十一月二十三日午後十一時ヨリ二十四日午前六時迄約七時間ニ亘リ警戒戒并候トシテ寒氣烈シテ疲勞困憊ニ至ルヲ食モナササル状態ナルモ不拘屢々危険ヲ冒シテ敵ノ監視兵在ル橋梁ヲ強行突破セント再三決行シタルモ敵ノ爲阻止セラレ止ムナク不成功トナル其ノ功績顯著ナリ

上等兵

谷島芳雄

右吉田伍長ト同様常ニ先頭ニ立テテ候長ヲ輔佐シタルモ
強行突破ニ努ム戦闘中左眼ニ負傷シタルモ尚任務ノ達成ニ
努力シタリ

上等兵

川邊常吉

右ハ東北大鼓橋ニ在リテ輕機関銃射手ニシテ中隊及歩兵第百
二聯隊ノ橋梁通過ノ掩護ニ當リ我重砲ノ射彈近ク落下シ
尚屢々敵ノ機銃ノ掃射ノ下ニ在リテ敵ヲ制壓シテ完全ニ其
ノ任務ヲ果シタリ

衛生上等兵

小池忠元

徳原上等兵ト共ニ敵彈下ニ在リテ特ニ我砲彈近ク落下セル中ヲ
安生伍長以下三名ノ負傷者ノ收容及初療ニ任シタル功績ハ
顯著ナリ

戦闘詳報 第一號附表

昭和十三年十月二十四日

第一大隊死傷表

備考	總計	第十一中隊	第十一中隊 鋒衛隊銃小队	第二中隊	第一大隊本部	區隊分	
						戦闘参加人員	戦況
	四			三	一	戦況 下士官 馬匹	死
	九六	一	二	七		戦況 下士官 馬匹	傷
						戦況 下士官 馬匹	生死不明
						戦況 下士官 馬匹	
	一			一		戦況 下士官 馬匹	
						戦況 下士官 馬匹	
						戦況 下士官 馬匹	
	二			二		戦況 下士官 馬匹	
						戦況 下士官 馬匹	
						戦況 下士官 馬匹	
						戦況 下士官 馬匹	

第一大隊武器彈藥損耗表(乙)

第一大隊武器彈藥損耗表(乙)

備考	計	第一機關銃隊	第二中隊	隊分		種類
				號	區	
	5		五	手榴彈	消	彈
				霰彈		
	354		三	小銃實包		
	450		四	經機別銃實包		
	246	二	四	重機關銃實包		
	5		五	筆銃實包	藥	賞
	4		四	發煙筒		
				砲車	武	
				彈藥車	損	器
				予備品車		
				手榴彈	彈	藥
				霰彈		
					其他武器	失

戦闘詳報第三号附表

昭和十二年十月二十四日 第一大隊 鹵獲表

種 類		區 分		負 数	奉 備
浮	虜	將 准士官馬	校 下士卒正		
戦 利	品	銃	砲	二	一 浮虜八歩兵隊百五十聯隊ニ交付セリ 二 遺棄死体 一二
		實 砲器	包 彈具	三	
		糧	秣	四	
		手榴彈	五	五	